結核対策活動紹介

当院に入院された高齢結核患者の現状

国立病院機構西新潟中央病院
看護師　長谷川 梨絵

1. はじめに

結核罹患率は減少傾向にあるが高齢者の結核罹患率は依然高いままである。

結核は隔離が必要な病気であり，標準治療で6カ月，高齢者の場合は基礎疾患や抗結核薬の副作用で内服できない等の原因から9カ月から1年以上の治療期間を要することが多い。

入院も様々な理由から長期にわたり，長期間の入院は高齢者にとってADL低下や認知機能の低下をまねく要因となることがわかっている。特に2020年以降，新型コロナウイルス感染症（以下新型コロナ）流行以降は家族の面会が制限されるなどの環境変化も大きく，隔離状態にある患者にとって厳しい状況が続いている。

新潟県では65歳以上の高齢者の占める割合は33.4%で全国の高齢化率を上回っており，単身高齢世帯，高齢夫婦世帯も過去5年間で増加傾向にある。

当院入院患者のうち75歳以上の患者が占める割合は7割を超えており，また75歳以上の患者の死亡率は3割ほどとなっている。入院された高齢結核患者は様々な要因から入院が長期間にわたり，寝たきりや認知症状の進行が見られている。そこで，どの程度の患者がADL低下や認知症状の悪化を来したのか調査を行い，病棟看護師として何ができるのかを考えることにした。

WHOでは65歳以上の人のことを高齢者として指しているが日本老年医学会では75歳以上を高齢者として定義されており本研究でも75歳以上を高齢者として定義付け集計を行った。

2. 結果及び考察

1）入院患者数及び死亡者数

新型コロナ流行以前の2018年は82名の入院患者数であったが新型コロナ流行後2019年（60名），2020年（49名）2021年（64名），2022年（48名）と減少傾向となっている（図1）。

その要因として当院は新潟県で唯一結核病棟がある病院であり，遠方の患者は当院まで片道3時間を要することもあるため長距離移動が患者の負担になったことが考えられる。（患者の居住地内訳:新潟市内50%，市外50%）

一方，死亡者数に関しては，入院から30日以内に死亡された患者の年次推移を見ると，年々増加が見られ，2022年には入院患者数48名，死亡患者11名中8名（73%）が30日以内に死亡されている（図2）。

これは，新型コロナ流行で受診控えや健診が未実施で発見が遅れたことが要因と考えられる。入院日数を75歳以上の患者で抽出すると平均よりも延長が見られた。

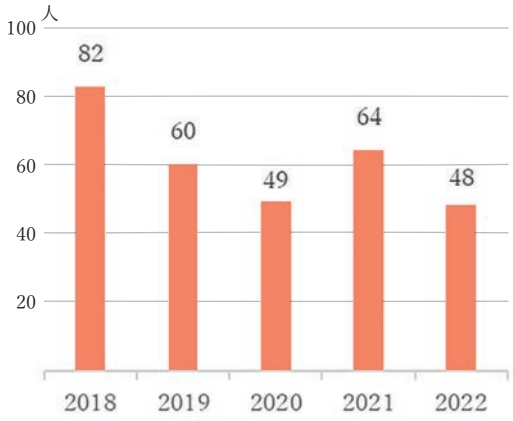

図 1. 入院患者数

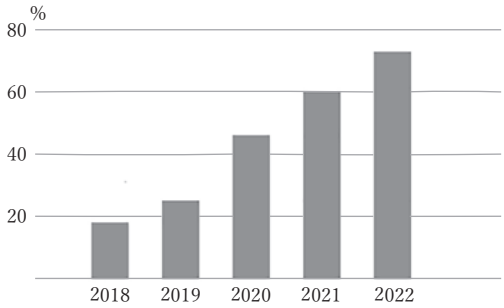

図 2. 死亡患者中入院 30 日以内の死亡割合の推移

2）ADL

患者のADLを入院時と退院時で比較したところ，寝たきりCと判定された患者はどの年も増加していた

(図3)。なお，75歳以上の入院平均日数は57.3日である。

一方，入院中看護職の介入によりADLが改善した事例も見られた。その1例として患者からカラオケが好きだと情報を得た事により，病棟スタッフがリハビリテーション科よりカラオケマイクを借り，認知症認定看護師も加わり余暇活動を行ったところ，本人の発声がはっきりし，入院時寝たきりの状態だったが車椅子で生活ができるようになり自宅に退院することができた。その後，地域DOTSにおいても薬の管理を家族に依頼し治療完遂に至った。

3）介護度，認知症日常生活自立度

認知症日常生活自立度については入院時より退院時悪化した割合の方が多かった。（改善8%，悪化12%）その背景には，新潟県の特徴として，結核病床を持つ病院が当院のみのため，退院可能となった患者が元の住まいの地域にある転院先で介護認定調査や退院調整が行われることがあり，介護度が入院時のまま退院されるケースがある。そのため寝たきりだが介護申請していないケースがあった。新潟県では64歳以上の高齢者の約半数にあたる52.9%が運転免許を保有しているというデータがある。そのため，車の運転を継続したいので介護保険を申請しないという場合がある。退院後，75歳以上の高齢者では内服管理が難しく協力者の存在が重要である。担当保健師と早期に問題の共有を図り，退院後の環境を整える必要がある。

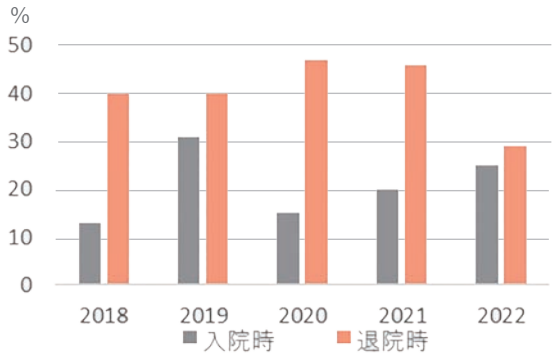

図 3. 寝たきり C の比較

3. まとめ

高齢者にとって入院の長期化は日常生活動作や認知機能など様々な影響を与える。認知機能の低下はリハビリテーション科や日々の関わりだけでは防ぐことが難しい。高齢者は内服管理を含めた退院支援が必須で退院支援を行う看護師は介護保険制度への理解が求められている。また退院先の施設等においても結核に対する正しい知識を求める必要がある。

地域での服薬管理を継続するために，病棟看護師と担当保健師間でどのように問題共有を図るかについては検討が必要な状況である。また，看護師が問題を捉えられるようスタッフに対して，結核の知識と退院支援についての教育が必要である。

3,300 円
A4 判・115 頁（352g）

結核の統計 2023 発行のお知らせ

結核・呼吸器疾患の1年分資料の集大成「結核の統計2023」を発行しました。保健衛生行政関係者はもとより，一般の医師・研究社・学生の方にもご活用いただけます。病院はじめ看護・保健師学校・医学系大学にはぜひ備えておきたい一冊です。現在の結核の現状が理解できるよう，カラー図表を満載の解説編を設けました。